

# さわやかに たからかに とこしえに

秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校 校長室だより第1号  
2020年5月7日(木)発行 文責 信田 正之

## さわやかに たからかに とこしえに

平成16年の4月で開校した本校は、この春で16才になりました。他校と比較すれば本校の歴史はまだ浅いのですが、開校当時は皆さんが生まれる前か、生まれて間もない時期だったことを考えれば、それなりに時間は経過したのだとしみじみ感じます。校舎は開校当初とそんなに変わっていませんが、校長室の窓から見える木々は、いつの間にか大きく成長しています。もちろん、第一体育館や実習棟、野球場、陸上競技場などは開校時にまだありませんでしたし、生徒の顔ぶれも当時と全く違っています。時間の流れの中で、変わるもの、変わらないものがあるのは世の常です。平安時代から鎌倉時代に生きた鴨長明が書いた随筆「方丈記」の冒頭に「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず」という有名な一説があります。「川の水が絶え間なく流れ続ける状態はいつまでも変わらないが、それでいて流れている水はもとの水ではない」という意味ですが、これは世の中の移り変わりを比喻した表現でもあります。学校も、校舎という入れ物は変わらなくても、生徒は毎年のように入れ替わる。正に、学校とは川の流れのようなものだとは私は常々感じています。できれば、この川がいつまでも満々と水をたたえ、社会という海に勢いよく水を送り続けられる存在になってくれればと、願わずにはられません。

さて、話は変わりますが、実はこの「校長室だより」、2年前の春にはすでにつくり始めていました。ところが、ロゴタイトルと一行目を入力したところで、作業を挫折してしまったのです。理由は、お恥ずかしい話ですが、単に「忙しかったから」です。ではなぜ今、作業が再開できたのかというと、それは新型コロナウイルスの影響にほかなりません。ウィルスのおかげで、年度初めの出張や会合の多くが中止になりました。同時に、休業で生徒の皆さんの顔を見る機会も少なくなりました。「仕事にゆとりが生じた時間を利用して、私の感じたことや考えたことを生徒の皆さんに伝えられれば・・・」。それこそが、この「校長室だより」の趣旨です。もちろん、学校が再開すれば、元の忙しい状況に戻りますが、そうなったとしても、「月一号」ペースで発行することを決意表明します。また、対象読者はもちろん生徒の皆さんですが、ご家族にも読んでいただけるよう学校ホームページで公開したいと思います。

なお、ロゴタイトル「さわやかに たからかに とこしえに」は、校歌から拝借しました。「品性と誇りある生徒をいつまでも育てる学校でありたい」という思いを込めています。ちょっと長いですが、どうかご愛顧のほどよろしく申し上げます。